



# うちとく 家読のススメ No.9 2022.3発行



## 「<sup>うち</sup>家のみんなで<sup>ほん</sup>本を<sup>よ</sup>読む」=家読

たとえば…

- みんなで同じ本を読んで、感想を話してみる
- それぞれが最近読んだ本の紹介をする
- 絵本の読み聞かせや本の朗読をする

やり方はいろいろです

この本おもしろい！という気持ちを家族でシェアしませんか  
本をきっかけに おしゃべりしましょう♪



## ～ <sup>かがく</sup>科学絵本・<sup>えほん</sup>写真絵本 ～

生きもののくらしや植物の成長、人間のからだやモノのしくみなど、わたしたちの周りにはさまざまな不思議がいっぱいです。日常の「？」を知るきっかけに、絵本を読んでみませんか。わかりやすい絵でえがかれた絵本や、生き生きと写真で伝えてくれる絵本がおすすめです。ぜひ、絵本から科学にふれてみてください。



### 『まほうのコップ』

藤田 千枝 // 原案  
川島 敏生 // 写真  
長谷川 摂子 // 文  
福音館書店

とうめいなコップに、ただの水を注ぐだけ。コップの後ろに果物や野菜、道具を置くとその姿が大変身！いちごが、あれれ？しめじが、うわあ！思わず自分でも、コップと水のまほうにチャレンジしたくなります。



『おすしやさんに  
いらっしやい！  
生きものが  
食べものになるまで』  
おかだ だいすけ // 文  
遠藤 宏 // 写真  
岩崎書店

子どもたちが訪れたのは、ちょっと変わったおすし屋さん。つり上げた魚を見てさわった後、職人さんが目の前でさばいてにぎって、「へい、おまち！」。生きものがどのように食べものになるか、ていねいにえがかれた絵本です。

### 『おかえり、ウミガメ』 高久 至 // 写真・文 アリス館

屋久島にアカウミガメが産卵にやってくる、5月。お母さんウミガメは砂浜に卵を産むと、海へと帰っていきます。産卵から、約2か月後。砂の中から顔を出した赤ちゃんウミガメは、海を目指していっせいに走り出します。でも、赤ちゃんウミガメには海までの道のりは遠くて…。産卵を通し、アカウミガメを取りまく環境と、その全力で生きる姿を写真でとらえています。

### 『このあいだになにがあった？』 佐藤 雅彦 // 作 ユーフラテス // 作 福音館書店

絵本を開くと、左のページに写真が1枚、右のページにも1枚。真ん中には質問がひとつ。「このあいだになにがあった？」。毛がもこもこの羊と毛の短い羊、オタマジャクシとカエル、などなど。2つの写真の間に起こった出来事は？自由な発想で推理を楽しみたい1冊です。

### 『たねのはなし かしこくておしゃれでふしぎな、ちいさないのち』

ダイアナ・アストン // 文 シルビア・ロング // 絵 千葉 茂樹 // 訳 ほるぷ出版

植物の種は種類によって、色や形、大きさもさまざま。綿毛をまとって風に乗って遠くまで飛んだり、生きものの身体にくっついて移動したり。そんな種の性質や発芽のしくみについて、色あざやかな絵と、面白いエピソードでわかりやすく説明されています。